さらに隆起して今日のすがたに

―変化をつづける大地―

「会津最後の海」は、アイヅタカサトカイギュウとともにたくさんの生き物たちがすむ、豊かな海でした。その後、高郷は湖・潟をへて、現在ではすっかり陸地となりました。大昔海の時代があったことなど、信じられないほどです。しかし、大地は、今も変化を続けています。目の前の地形に、大地の動きを感じてみましょう。

【高郷の地形その１　河岸段丘】

上がり続ける大地、その大地を下へけずり続ける阿賀野川。今も続くこの大自然のいとなみは、すでに４～５段もの河岸段丘を高郷に形成しています。

段丘には、塩坪遺跡に代表されるように、早く（15,000年前、旧石器時代）から人が住み、木の実をとったり狩りをしたりしてくらしていました。5,000年前には沼沢火山の噴火によって、大量の軽石を含んだ土砂が運ばれ、たいせきしました。

【高郷の地形その２　ケスタ地形】

図20　雷神山スキー場

図21　塩坪の「へつり山」

高郷村には、「へ」あるいは「ヘ」のような形をした山が多く見られます。これは、山をつくっている地層のかたむきが、そのまま山の表面の形となってあらわれているためです。これをケスタ地形といいます。雷神山では、かたむいた地層の面がそのまま、スキー場に利用されています。

図22　高郷中学校から見た塩坪の「へつり山」

「海」でたいせきした地層が、今「山」となってわたしたちの目の前にそそりたっています。自然の力は、なんとすばらしいのでしょう。